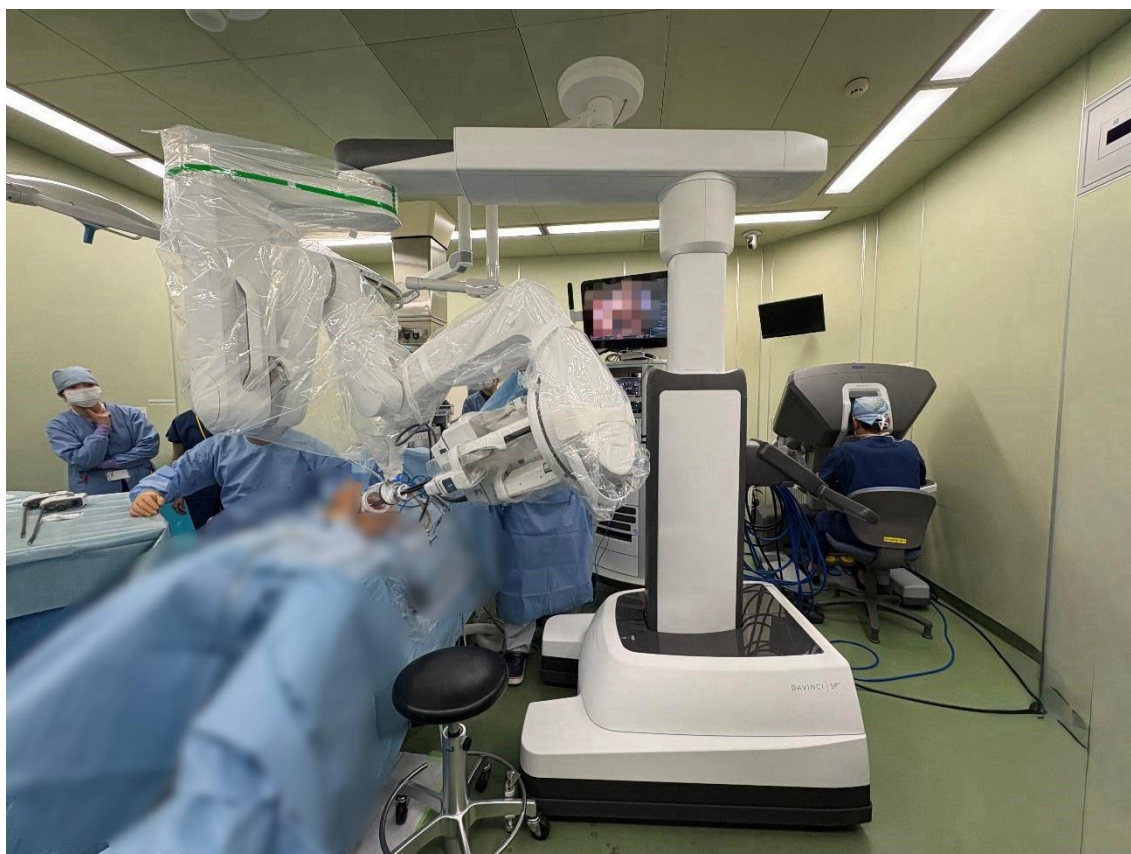


埼玉医科大学国際医療センター消化器外科

(下部消化管外科) での大腸がん手術



国内有数の大腸がん手術施設

当科では、年間 500 例以上の原発性大腸がん手術を実施しており、全国でも有数の実績を誇ります。手術では、がんの部位や進行度、患者さんの全身状態を詳細に評価し、個々の患者さんに最適な治療法を選択しています。特に高齢者や併存疾患を持つ患者さんに対しても、安全で効果的な手術を提供できるよう努めています。

低侵襲手術が治療の柱

当科は、低侵襲手術を中心とした治療方針を掲げており、患者さんの体への負担を最小限に抑えることを目指しています。具体的には、以下の手術法を活用しています。

・単孔式腹腔鏡手術

1 つの小さな切開口で腹腔鏡手術を行う単孔式腹腔鏡手術は、術後の痛みや体表の傷を最小限に抑えるため、患者さんの満足度が非常に高い手術法です。この技術は特に審美的な観点からも評価さ

れており、若年層や美容面を重視する患者さんにとって有益です。

・ロボット支援手術

当科では、手術支援ロボット「Senhance」、**「da Vinci Xi」**および**「Davinci SP」**を用いたロボット支援手術を積極的に導入しています。これにより、通常の腹腔鏡手術では難しい精密な操作が可能となり、腫瘍周囲の血管や神経を傷つけるリスクを大幅に軽減できます。また、排尿・排便機能や性機能の温存にも配慮した治療を提供しており、特に進行がんや複雑な解剖を伴う症例において高い効果を発揮しています。

「da Vinci SP」の導入によるさらなる進化

今回導入した最新ロボット**「da Vinci SP」**によって、これまでの低侵襲手術の選択肢がさらに拡大しました。**「da Vinci SP」**の特長である単一ポート手術は、体表の傷口を最小限に抑えるだけでなく、体腔内での自由度の高い操作を可能にします。

当科では**「da Vinci SP」**の性能を最大限に引き出し、大腸がん患者さんに安全かつ効果的な治療を提供することを目指しています。また、**「da Vinci SP」**の導入により、これまでの豊富な単孔式腹腔鏡手術およびロボット手術の経験を活かし、埼玉県内で初の大腸領域導入施設として、患者さん一人ひとりの希望や病状に合わせた治療法を提供します。これにより、患者さんの満足度と QOL（生活の質）向上に貢献し、大腸がん治療のさらなる進化を図ります。

当科はこれからも、最新の医療技術を積極的に導入し、患者さんにとって最良の治療を提供していく所存です。